

未来を語ろう中学生交流事業を実施しました

8月8日(月)から9日(火)にかけて、宮古市において、未来を語ろう中学生交流事業を実施しました。宮古市からは各中学校から代表者2名ずつの計22名に、黒石市からは、黒石市立

なかごう
中郷中学校の生徒19名に参加していただきました。

8日(月)は、両市にまつわる伝説や歴史の縁がある津軽石川と千徳地区を見学、その後、崎山貝塚縄文の森ミュージアム、田老地区の防潮堤や震災遺構等の見学を行いました。参加した中郷中学校の生徒は、「初めて訪れた宮古は自然豊かで優しい人が多いと感じました。津波被害のあった現地を見学し、ガイドさんの話を聞くことで、防災・減災について自分も考えていかなければいけないなと思いました。」と話していました。

翌日、9日(火)は、宮古市立田老第一中学校にて、意見交流会を行いました。

はじめに、中郷中学校の生徒が黒石市について紹介し、その中で「黒石よされ」を披露しました。次に、田老第一中学校の代表生徒による語り部発表が行われ、その後、両市の未来についてグループごとに意見交流を行いました。交流の後には、震災資料室の見学と用務員の方の震災体験談を伺う場面もありました。

参加した生徒からは、「未来の街づくりに必要なことについて、お互いに考えたことを出し合い、考えを深めることができました。自分たちがこれからの街をつくっていくのだということを改めて感じました。」という言葉が聞こえ、将来の両市を担う世代が交流するいい機会となりました。



対面セレモニー



浄土ヶ浜見学